

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	24225001	研究期間	平成 24 年度～平成 28 年度
研究課題名	革新的高輝度近赤外発光プローブの創製と生体内癌イメージングへの応用	研究代表者 (所属・職) (平成27年3月現在)	鈴木 孝治 (慶應義塾大学・理工学部・教授)

【平成 27 年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○ A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、次世代医療の発展に不可欠な細胞・生体イメージング法の高度化に向けて、高輝度近赤外発光分子とそれに最適化させた人工酵素を創り出すという斬新なアプローチによる人工生物発光型分子プローブの開発を目指したものである。これまでに世界で最も高輝度な人工生物発光システムを実現させており、また、生物発光からの共鳴エネルギー移動を用いた近赤外化についても十分な成果が見込まれることから、着実に研究が進展し、期待どおりの成果が得られるものと判断できる。今後の課題である癌イメージングへの応用に早急に取り組み、既存の技術に対する本技術の優位性を実証するとともに、これらの成果を早急にまとめて発表することが期待される。